

米国国立がん研究所

NCI 声明:携帯電話の使用による脳腫瘍リスクの増加を国際研究は示さない

国際的な協調をとって、今日まででその種の研究としては最も大きな研究である INTERPHONE は、携帯電話使用者には、全体的に見て、最も普通に見られる二つの脳が んー神経膠腫と髄膜腫のリスク増加がないことを報告した。さらに、通話回数、通話時 間、または携帯電話の使用開始以降の期間の増大に伴うリスクの証拠はなかった。しか しながら、研究参加者のほんの一部であったが、それまでの人生での累積通話時間を尺 度として最も使用した人において、神経膠腫のリスク上昇が示唆されたが、著者らはこ の知見は決定的なものではないとしている。研究は、2010年5月17日に International Journal of Epidemiology にオンライン発表された。

“この分野の研究は引き続き行われことは明白ではあるが、今回の大規模で、長期間に わたる研究は、携帯電話と脳がんについて、一連の科学的な証拠に大きく寄与する。ま た、INTERPHONE は、携帯電話と脳がんの間で考えられる何らかの関連性を、同定し、 確認し、また最終的に排除することが如何に困難なことかをも示している。”と、国立が ん研究所 (NCI) のデレクター、John E.Niederhuber 博士が述べている。NCI は、アメリ カ国立衛生研究所 (NIH) の一部である。研究者もまた、長期間にわたる携帯電話のヘビ ーユーザと関連づけたリスク、また小児と若者のリスクを評価するために、さらに研究 が必要であることを述べている。INTERPHONE 研究は、携帯電話を最も頻繁に使用して いると予想された 30 歳から 59 歳の人々に焦点を当てた。INTERPHONE の結果は、1994 年から 1998 年にわたって、より古いタイプのアナログ式の携帯電話の使用に関連したリ スクについて行なわれた NCI の研究と一貫性がある。この研究の結果では、いかなる関 連性も見いだされなかったことが、2001 年に New England Journal of Medicine に発表され ている。

これまでの疫学研究の結果は一致しておらず、携帯電話使用、特に小児の使用、ヘビ ーユーザまたは長期間の使用について、がんおよびがん以外の健康への悪影響に関する多 くの疑問に適切に取り組んでこなかった。INTERPHONE は、携帯電話の幅広い使用パ ターンを集めるために多数の研究からのデータをプールして、長期間使用の影響に取り組 む努力をした。その結果、INTERPHONE 研究は、米国は入っていないが、世界 13 カ 国からなり、5,000 以上の脳腫瘍症例と健康な対照から、携帯電話の使用頻度、1 ヶ月当 たりの通話時間、累積時間などのデータを集めた。また、INTERPHONE の知見は、今日、 世界中で最も一般的タイプであるデジタル式電話にも当てはめられる。

“INTERPHONE は、いずれそのうち、携帯電話と脳と中枢神経系腫瘍リスクについて最 も信頼される研究となるであろう。”と NCI の放射線疫学部門長である Martha S.Linet 博 士は述べた。“携帯電話は、米国だけではなく、世界中いたるところで使用されている。 国際的な研究パートナーと一緒に、NIH はこの重要で普遍的なばく露について完全な調 査を行いつつ、携帯電話使用の潜在的な健康影響をさらに理解できるように研究努力を 続けている。”

脳がんの発症率と死亡率は、過去数十年で殆ど変化しない。米国では、2009 年に、12,920 例の脳がんによる死亡があり、22,070 例の新規患者が診断されていると推定される。

###

参考: Cardis E, et al. Brain tumour risk in relation to mobile telephone use: results of the INTERPHONE international case-control study. International Journal of Epidemiology. 2010: 1-20. doi:10.1093/ije/dyq079. 携帯電話と脳腫瘍リスクについての NCI のファクトシートについては、 以下を参照 <http://www.cancer.gov/cancertpoics.factsheet/Risk/cellphones>.